



## Vantage GT3、インテルラゴスで今季初の WEC 表彰台を記録

- Racing Spirit of Léman、サンパウロ 6 時間レース 3 位で初の WEC 表彰台獲得
- ホームヒーローのエドゥアルド・バリチェロが、WEC デビューを果たしたアントニー・マッキントッシュとワークスドライバーのヴァランタン・アス・クローと共に、初の WEC 表彰台に並ぶ
- Vantage GT3、WEC で今季連続となる 2 度目のポールポジションを獲得
- The Heart of Racing、IMSA ウェザーテック・スポーツカー選手権でポイントを重ね、GTD クラスのタイトル争いに残る



2025年7月14日、インテルラゴス（ブラジル）：

アストンマーティンのパートナーチーム、Racing Spirit of Léman（RSL）は、日曜日に開催された白熱のサンパウロ6時間レースにて3位フィニッシュを決め、FIA世界耐久選手権（WEC）で初の表彰台を獲得しました。アストンマーティンVantage GT3にとっても、今シーズン初のWEC表彰台フィニッシュとなりました。

VantageでのWEC参戦は今季が初となるRSLは、13度のF1®グランプリ優勝を果たしたルーベンス・バリチェロを父に持つホームヒーロー、エドゥアルド・バリチェロの活躍もあり、週末

を通してレースの鍵を握る存在となりました。ワークスドライバーのヴァランタン・アス・クロー（フランス）もドライバーに名を連ねるアストンマーティン10号車が、WEC初出場のアントニー・マッキントッシュ（米国）の快挙でハイパーポール出場を果たしたことが、バリチェロのLMGT3クラスのポールポジション獲得につながりました。本戦でバリチェロは3回のスティントを見事にこなして上位に食い込み、最後の10分で劇的な3位フィニッシュを果たしました。

本戦でスタートを切ったのは、先月のクラウドストライク・スパ24時間レースでSilver Amクラス2位に入ったWECルーキーのマッキントッシュで、先頭を率いた後に2番手に下がったものの、そのポジションを守ったまま最初のピットストップに入りました。ダブルスティント後半は6番手からの開始となりましたが、集団の先頭争いを続けるうちに小さなミスが災いしてトップ10から脱落したところでバリチェロに交代しました。

23歳のバリチェロは、目を見張るダブルスティントで表彰台争いに再び加わります。その後を引き継いだアス・クローのダブルスティントも力強く、その甲斐あって最後の1時間になった時点でバリチェロは5番手を走っていました。再び攻め入ったバリチェロは最後の15分で2台を追い抜き、残り3周となったところで3位のポジションを確保しました。

バリチェロは次のように述べています。「クレイジーな状況でした。レース終盤にどこまでタイヤを追い込むか、エンジニアたちの指示をひたすら信じるしかありませんでした。追い込みすぎると、すべてが水の泡になってしまう可能性があったからです。なんとか乗り切ることができ、ありがたいことにすべてがうまくいったので、最後に3位を確保できるだけの力がマシンに残っていました」

「ホームレースで表彰台フィニッシュを果たせて素晴らしい気分ですし、ファンからの特別な応援をもらったのも、信じられないほどの体験でした。自分がそれに値するのにはよくわかりませんが、どちらにしても良い気分でした！ インテルラゴスにアストンマーティンで出場できたことを光栄に思います。途方もなく素晴らしい週末でした——人生最高の週末の一つだと思います」

今回の表彰台獲得は、ドライバー3名全員にとって初めてであると同時に、WEC出場がまだ5回にすぎないRSLにとっても、これまでで最高の結果となりました。2012年以来、WECはインテルラゴスで5回開催されていますが、Vantageは通算3つのクラス優勝とさらに5つの表彰台獲得を達成しています。2024年に登場したVantage GT3の最新バージョンが表彰台を獲得するのは今回で2度目になります。昨年のレースではThe Heart of Racing（THOR）が2位でフィニッシュしました。RSLのポールポジションも、6月のル・マン24時間レースのTHORに続き、VantageにとってはWECで2連続の獲得となります。

北米最高峰のGTシリーズ、IMSA ウェザーテック・スポーツカー選手権 (IMSA) の第6戦が米国の国境を北に超え、カナディアンタイヤ・モSPORT・パーク (CTMP) で開催されましたが、ここでもVantageは好調な記録を叩き出しています。今回のカナダ戦にはGTPクラスがないため、ハイパーカーValkyrieのドライバーであるロマン・デ・アンジェリス (カナダ) が、WECブラジル戦に出場したトム・ギャンプル (英国) に代わり、キャスパー・スティーブソン (英国) と共にTHORの27号車Vantage GT3のハンドルを握りました。スティーブソンは2週間前にワトキングレンで開催された前回のレースでGTDクラス優勝を果たしています。

2022年GTDクラスチャンピオンのデ・アンジェリスはスティーブソンと共に週末を通して好タイムを記録し、4番手スタートから6位でチェッカーフラッグを通過。2時間40分のレースでは、先頭集団のマシンの差がわずか数秒という場面が多く見られました。今回の結果で、スティーブソンとTHORはGTDのドライバーおよびチームのそれぞれ3位となり、タイトル争いの真ただ中に残ることになります。

アストンマーティンの耐久モータースポーツ責任者のアダム・カーターは、次のように述べています。「ウィークエンドを通して優れたパフォーマンスを発揮したRacing Spirit of Lémanに祝辞を送ります。チームはインテルラゴスの予選でVantageのポテンシャルを最大限引き出し、続く本戦では見事な表彰台獲得という成果を挙げました。エドゥアルド・バリチェロはまだ5度目のWEC出場ながら大変心強いパフォーマンスで、イアン・マッキントッシュは素晴らしいデビューを飾り、ヴァランタン・アス・クローは、チーム同様、今回の表彰台獲得を心から堪能していました。今回の結果で、またもやVantage GT3の多才さと競争力の高さが話題になりました。どちらもカスタマーレーシングで成功の鍵を握る要素です。The Heart of Racingも、IMSAのCTMP戦で再び力強い走りを見せ、シーズン後半3分の1に向かう中でまたもタイトル争いに加っています」

ウルトラ・ラグジュアリー・ブランドであるアストンマーティンが最高に磨き上げたスポーツカーと同じ機械的アーキテクチャを採用するVantage GT3は、アストンマーティンの実績ある接着アルミシャシーを中心に組み立てられ、驚異的な4.0リッターV8ツインターボエンジンを搭載しています。IMSAワトキングレン戦の勝利に加え、2025年クラウドストライク・スパ24時間レースにおいても複数のクラス優勝を挙げ、先月のADAC ラベノール・ニュルブルクリンク24時間でもクラス表彰台を獲得しました。

WECは夏季の間は開催されず、次回は9月5日～7日にサーキット・オブ・ジ・アメリカズ (COTA) で開催されるローンスタール・マン6時間レースでの再開になります。一方のIMSAは、8月1日～3日のロード・アメリカへと続きます。

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://we.tl/t-j8ZwSFZ3De>

## アストンマーティン・ラゴンダについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・プリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって1913年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、Vantage、DB12、Vanquish、DBX707に加え、同社初のハイパーカーであるValkyrieなど、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、Racing Green.サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは2025年から2030年にかけて、PHEVとBEVを含むブレンドドライブトレインアプローチによる内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーとSUVのラインナップを持つという明確なプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴンダは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で50以上もの国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。同社は、2030年までに製造施設をネットゼロにする目標を掲げています。

ラゴンダは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



<https://media.astonmartin.com/>

メディア問い合わせ先：

Aston Martin Lagonda  
Marketing & Communications Manager-Japan

松永 悠理

[yuri.matsunaga@astonmartin.com](mailto:yuri.matsunaga@astonmartin.com)

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 中井 美里：070-2238-5865

[astonmartin-pr@pjbc.co.jp](mailto:astonmartin-pr@pjbc.co.jp)